

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立神門幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	担任は、様々な感情体験や実体験、心身の自立等を大切に指導計画を立案し教育目標（『心豊かにたくましく』）を具現化する学級経営に努めた。各学年の発達理解を意識し、育てたい願いに向かって実践した。	4	4	日々の保育や学級経営は、教育目標や年齢にふさわしい発達を目指して行い定期的に評価している。引き続き、職員が互いに保育を見合い協議する機会を確保し、指導力の向上を目指す。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	職員は、幼児一人一人の姿から育ちや課題を読み取って日々の保育に活かすよう努めており、成長に繋がっている。学級内でも職員同士共有している。保護者からも喜ばれているが、教師との連携を更に望む声もある。	3	3	一人一人の変化や成長に対して敏感にキャッチし、自己の読み取りを職員間で伝え合う中で、内面理解を深めたり援助の工夫に繋がったりしていく。日々の保育の記録を、幼児への関わりや保護者との連携に活かす。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	特別な支援を要する幼児や保護者、配慮が必要な家庭に対して、担任が一人で抱え込まないようチームとして、情報共有や援助の検討をして支えている。保護者・専門機関・小学校・保健師等との連携を丁寧に図っている。	4	4	配慮が必要な幼児の課題、子育てに悩む保護者等、姿や背景が複雑化し対応の難しさが増している。対応の為の時間も多い。成果は早急に望めないが、引き続き連携を大切にし、援助の工夫に繋げる。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	一人一人を大切にすることを学級経営の基底に据え、進路保障の基礎となる基本的生活習慣の形成を大事に自立を促している。友達との関わりでは、学級や一人一人の課題を見出し、発達段階に応じて、自他を大切にすることを育てている。	3	3	人権・同和教育の研修を継続して受け、日々の自分の関わり方を常に振り返ることで、感性を高める努力を続ける。日常の幼児の言動から、一人一人の心の痛みを鋭く察知して援助すると共に、職員間で互いに意識を高め合う。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	コロナ禍で、今年度も園行事への制限が続いた。しかし、日々の遊びとの繋がりを大切にし、一人一人が輝く場として、幼児の発想と教師が育てたいと願うことを融合させて取り組んだ。保護者にも便りなどで意図や成長を伝え、評価を得ている。	4	4	行事の目的やねらいを明確に、全職員が幼児一人一人や学級集団の発達を促す機会にするよう、共通理解して日常の保育と繋げて取り組んでいる。学校関係者による評価も高い。今後、感染症の動向を見ながら対応を検討する。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	職員同士は、校園長会・担当者会・特別支援園児の情報交換等、に取り組み、園児や保護者の安心感に繋がっている。年長児はアプローチカリキュラムを意識して生活しているが、小学校への働きかけを増やしたい。	3	3	文部科学省で５歳児プログラムがクローズアップされ、連携の必要性や幼児教育が一層重要視されている。小学校と幼稚園の職員同士、互いの理解が進む繋がりとなるよう、幼稚園側からの働きかけを考える。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	神戸川探検や真幸ヶ丘公園など、地域の良さや教育力を取り入れた活動は、その時だけでなく遊びや行事にも繋げており、保護者の評価も高い。一方、コロナ禍において幼稚園との連携を深めたいという意識も見られる。	3	4	地域の教育力（施設・自然・人材等）を活かした保育は、保護者・学校関係者・職員全て高評価だった。工夫を続け、保育の充実と幼児の成長に繋げる。保護者との連携をより深めるよう積極的な声かけをする。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	今年度も継続して園内研究に取り組み、複数回指導員を招いて、保育公開も行った。また、職員間で記録会を行い、協議し学び得たことを日常の保育に取り入れ、遊びの充実や幼児の成長に繋げている。	4	4	研究主題『自ら心を弾ませ、夢中になって遊ぶ幼児の育成～幼児と共に遊びを創っていく教師の援助について探る～』の成果と課題を明確にし次年度に繋げる。日常の保育に研究を反映するよう努めているが、更に時間を確保する。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	行事の起案や週報などを通して、教職員間で見通しをもち、共有できるようにしている。進捗状況について互いに声を掛け、カバーし合ったり気付いたことを伝え合うように努め、行事などにも円滑に取り組めた。	3	3	行事の準備や環境整備、園児の安全対策等、自主的に取り組んだり声を掛け合ったりする雰囲気が出てきた。一方、正規職員しか取り組めない業務も多い。時間外勤務の削減を目指しているが課題である。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	感染症対策や緊急対応について、園児指導と保護者周知、施設内の環境整備、衛生管理等に努めている。教師の予想を超えた行動をする幼児や、多様な意識をもつ保護者への対応など、難しさもある。	3	3	感染症対策等、引き続き園児・保護者・教職員の安全に留意し、気を引き締めながら生活する。日常に潜む危険について、情報収集と気付く目、的確な判断力、未然に防ぐ行動を、教職員誰もが常に意識する。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	園舎・遊具等の定期的な点検や整備など、幼児の目線で早期発見に心がけ、校務員や施設課への依頼・要望など連携を図り対応している。保育の中での『ヒヤリハット事例』を記載後職員間で共有し予防改善に努めている。	3	3	危険予測への意識が全職員で高まってきているが、保育現場は常に状況が変化し続けるので、臨機応変な判断が必要である。また、気付いたことは誰もがすぐに声を上げ、職員間で共有し早期対応する必要がある。

※評価基準　４：十分達成している　３：概ね達成している　２：改善を要する部分がある　１：大いに改善を要する